

総務管理官 藤井 俊樹

せんだん通信をご覧のみなさま、こんにちは。

総務管理官の藤井と申します。またあるときは年金管理官の藤井ともいいます。

総務管理官とは何をやっているかわからんと思いますが、「踊る大捜査線」の室井管理官（古い？）のような域に達するにはほど遠いです。

さて、私は平成 29 年 4 月に東京からこれまで足を踏み入れたことのなかったこの広島へ単身で乗り込んできました。

広島の第一印象は、甘酸っぱいソースの香りのする**お好み焼**と、歩いた方

が速いのではないかと感じる**路面電車**でした。広島というと「かき（牡蠣）」しかないと思いこんでいましたが、旬でないからなのか夏季だからなのか「かき」の「か」の字もなく、あたり一面がソースの焼けた匂いに支配され、ついふらふらっとお店へ立ち寄ってしまう有様。



毎日乗っている路面電車

それ以来お好み焼きにはまり、今では食べ歩きどころか自分で創作（DIY：Do It Yourself）するようになりました。ダイエットを意識して焼きそばは入れず、キャベツを山盛りにし、たまご、小エビをベースに、トッピングは紅ショウガと青のり、最後にソースとマヨネーズを「Z（ゼット）」に 2 回なぞって完成です。

また、少し前までは、カレー、ラーメン、からあげなど脂こったり系の食事が好みだったのですが、今はサラダ系が主流となり、さらに、コーヒーに豆乳と青汁をブレンドして飲むことが日課となり、健康第一の生活を送っています。これが新健康生活「FUJII バージョン」です。

食事は健康を支えるベースとなりますが、食事だけでは長生きできません。もちろん運動も必要で、私は今

マラソンにこっています。



マラソン大会での記念写真
(この頃は調子が良かった…)

4～5年前から始めて、平成 27 年 1 月のいぶすき菜の花マラソン（鹿児島県で行われるフルマラソン）でサブフォー（4 時間を切ること）を達成したまではよかったのですが、その後、仕事の忙しさもあって練習が思いの外できず、リバウンドというか以前のペースでは走れない体になってしまいました。

今回、こちらへ赴任し、「復活のビクトリーロード」に向け、「**藤井再**

生」プロジェクトを始動。休日（おおむね休日は暇ですが）に広島市内の名所や迷所を観光しながら、心身ともに再生することを目指して走っています。

この秋には宮島で行われるクロスカントリー（16 km）に挑戦です（一緒に走る人を募集中です。なお、走り終わった後の反省会のみ参加したいという人はいましたが・・・）。

このように、健康寿命を延ばすためには食事や運動に気を配ることが必要だと考えています。



それともう一つ、**タバコ**です。東京オリンピックまでには**どーにか**



せにゃあいけんということで、厚生労働省は「原則屋内禁煙の実現」

を最優先課題の一つとして、法案提出に向け議論を進めていました。これは、現在、タバコを吸わない人が8割を超えているにもかかわらず、多くの国民が飲食店や職場等において深刻な受動喫煙の被害にあっているためです。

国立がん研究センターの発表によれば、受動喫煙を受けなければ亡くならず

にすんだ方は、国内で少なくとも年間約1万5千人いるそうです。また、厚生労働科学研究班の推計によれば、受動喫煙による超過医療費は、年間3千億円以上だそうです。

残念ながら、受動喫煙被害の最大の現場となっている飲食店の取り扱いが結論にいたりませんでした。今後、関係者の理解を深め、早期の法案提出に向け進めるとのことです。

このような中で、私のまわりの喫煙者は、外で吸っているせいか「他人には迷惑かけていない、税金は他の人より多く払っている」といった強気の姿勢をまだまだ崩してはいません。

これに対し、受動喫煙の被害を受けている私は、自分も10年前までタバコを吸っていた罪悪感から「これだけ世間から非難されているから、もう観念してください」とこの場を借りて申し上げるのがやっとです。

しかし、健康寿命の延長のため、**まずは隗より始めよ**です。近くの人から改心させることが肝心です。

そして、健康な老後の生活を支える基盤といえば、なんといっても年金です。

今年の8月から年金受給資格期間が25年から10年に短縮されるということで、全国で約64万人の方が新たに年金を受給する権利が得られる見込みです。この方々へは、日本年金機構から黄色の封筒が送付されていますので速やかに手続きをお願いします（現在、年金事務所で相談予約受付中）。

“黄色”と聞くと、私の世代だと高倉健さんの映画で**「幸福（しあわせ）の黄色いハンカチ**

を連想します。家のまわりにたくさんの黄色いハンカチが掛けられている有名なワンシーンが目に浮かびます。この黄色い封筒は、新たな幸せを運んでくるもので、今はこの幸せをつかむチャンスです。

現在のところ、まだ全体（約64万人）のうち多くの方が年金請求をされていないため、この打開策を考えていたところ、麻薬取締部が広島合同庁舎の屋外電光掲示板に「あらゆる薬物をなくそう ダメ。ゼツタイ。普及運動実施」を掲載しようとしているのが目に留まりました。

私はそれに便乗し、黄色の封筒について少しでも多くの方々に知っていただくため、電光掲示板にPRを掲載することを思いつきました。

俳句や川柳のようにすれば、みなさんの目に焼きつくのかなと思い、

「黄色の封筒届いたら、君の名で請求。忘れずにゼツタイ」

「気がつけば、黄色の封筒きています。呼び起こせ 記録した記憶」

昨年大ヒットした映画「君の名は。」にあやかって多くの人に知ってもらいたいことや、「記録した記憶」は同調して覚えやすいことから、この二つを提案しました。

しかし、担当課からは「文章が短いため伝わらないのではないか、『忘れずにゼツタイ』は麻薬取締部のパクリだ」と揶揄され、一蹴されてしまいました。

一方で、この年金請求を行うことによって、今まで生活保護を受けていた方は、納めた保険料に応じた年金が受けられ、国や自治体が支払っていた生活保護の一部が年金に切り替わるため、自治体の負担も減ることで、大きなメリットが享受されるのです。自治体の皆様にはこの場をお借りして協力連携を是非ともよろしく願いたいと思います。

もう一つ忘れていけないのが子供達です。現在、年金は賦課方式であり、子供世代が支払った保険料が親世代への年金として支払われています。そういう支えている子供達がいたところで活躍しています。

その1人が、今将棋界で大旋風を巻き起こしている「藤井聡太（ふじいそうた）」四段です。破竹の勢いで29連勝を飾り、30連勝まではあと一步でしたが、「藤井再生」でがんばってもらいたいものです。

名字が同じであるため、「息子さんですか」と間違われることがあるかと内心期待していましたが、いまだにそういうことはありません。ちなみに息子は一字違いの「藤井雄太（ふじいゆうた）」といいます。「おいしいなあ。もうちょっと、近いね」といわれますが、いったい何がおしいのか全く意味がわかりません。

それはそうと、これらの若い支え手のためにも私たちは子供の世代のために何ができるか、どうすれば**「将来世代に負担を先送りしない**

ですむのか」を考えていく必要があります。



実はこれらのことを解決するのが**「藤井再生プロジェクト」**なんです。野菜をふんだんに摂取する食生活、ランニングで病気にならない体づくり、もちろんタバコは論外です。長生きして多くの年金もらいましょうというものです。これぞ「風が吹けば桶屋が儲かる」方式です。

「健康寿命が伸びる」→「医療費や介護費用が大幅減」→「年金などから子供や孫達へ教育費等への支援」→「子供や孫達の生活基盤が安定」→「人口増加」

その結果、多くの若い世代でお年寄りを支える理想の国家を作りあげることができるのです。

したがって、この藤井再生プロジェクトを始動？することで、中国四国地方はもとより、日本を救うこととなるのです。どうか皆様方一人ひとりがこのプロジェクトにご賛同いただき、健康な生活、豊かな老後、明るい未来を過ごせますよう、切に祈念いたします。